

ともしび双書

# 神奈川県福祉作文コンクール 入選作品集



令和元年度版

## まえがき

福祉作文コンクールは昭和52年から始まり、今年で43回目となりました。次代を担う子どもたちに「たすけあい」や「思いやり」の心が芽生え、だれでもが「ともに生きる」社会が実現することを願って実施してまいりました。

今年、県内の小・中学校合わせて279校から8861編の応募がありました。児童・生徒数が年々減少していく中で毎年多くの方に参加いただいています。

応募作品は小・中学生別に、県内市区町村ごとの地区審査会および県最終審査会を行い、このたび、最優秀賞16編、優秀賞20編、準優秀賞20編の入選作が決定いたしました。

本作品集は、入選作品の中から、最優秀賞15編を掲載したものです。どの作品も、体験や経験を通じて感じたこと、考えたことなどが自分自身の言葉で丁寧にかかれていきます。広く県民皆さまの目に留まり、お互いを思いやり、たすけあい、支え合えるような優しい気持ちや社会全体に広がっていくことを願っています。

本来ならば、すべての入選作品をご紹介したいところですが、誌面の関係で、優秀賞及び準優秀賞の作品は、題名・学校名・氏名を掲載させていただきましたので、ご了承ください。なお、作品は、児童、生徒の気持ちを尊重し、原則として原文どおりに掲載しておりますことを申し添えます。

結びにあたり、コンクールに参加した小・中学生の皆さん、指導にあたられた先生方、ご家族の皆さま、ご多忙のなか審査をお願いしました委員の方々に、心よりお礼申しあげます。また、ご協力くださいました神奈川県、神奈川県教育委員会、各市町村教育委員会、日本放送協会横浜放送局、(株)テレビ神奈川、(株)神奈川新聞社、(公財)日揮社会福祉財団の皆さまに深く感謝申しあげます。

令和元年12月

社会福祉法人神奈川県共同募金会  
社会福祉法人神奈川県社会福祉協議会

審査にあたられた方々

日本放送協会横浜放送局  
放送部部長  
株式会社テレビ神奈川  
営業本部 営業推進室長兼事業推進部長  
株式会社神奈川新聞社  
クロスメディア営業局 出版メディア部 部長  
公益財団法人日揮社会福祉財団  
常務理事兼事務局長  
神奈川県福祉こどもみらい局福祉部  
地域福祉課 課長  
神奈川県立総合教育センター  
企画調整部企画広報課 指導主事  
社会福祉法人神奈川県共同募金会  
常務理事  
社会福祉法人神奈川県社会福祉協議会  
常務理事

青田浩一  
遊馬秀樹  
鈴木木毅  
木高正志  
長島圭太  
海野真一郎  
八木明  
石黒敬史

(順不同/敬称略)

# 第43回神奈川県福祉作文コンクール入選作品集 目次

## 小学生の部

### 最優秀賞

神奈川県知事賞

いろいろな人がいるんだよ

平塚市立みずほ小学校

六年 井山 瑠璃…………… 1

神奈川県教育長賞

「ふ」だんの「く」らしを「し」あわせに

大井町立相和小学校

六年 犬塚 美沙…………… 3

日本放送協会横浜放送局長賞

ヘルプマークについて

座間市立相武台東小学校

五年 加藤 レイ…………… 5

テレビ神奈川社長賞

ほくのおにいちゃんを知って

相模原市立富士見小学校

二年 前田 隼汰…………… 7

※本人ご家族の希望により作品の掲載を控えます

神奈川新聞社長賞

弟と支援級

座間市立栗原小学校

五年 鈴木 千凰…………… 8

ふれあい賞

おばあちゃんとのりよこうと車いす

伊勢原市立緑台小学校

一年 安倍 花怜…………… 10

神奈川県共同募金会長賞

目に見えなくても

横浜市立三ツ境小学校(瀬谷区)

三年 林 夏煌…………… 12

神奈川県社会福祉協議会長賞

福祉の素晴らしさ

相模原市立中野小学校

六年 熊澤 歩未…………… 14

## 中学生の部

### 最優秀賞

神奈川県知事賞

人生の先輩を大切に

秦野市立南中学校

三年 青山 夏凜…………… 17

神奈川県教育長賞

苺がくれたプレゼント

寒川町立旭が丘中学校

三年 笹生 葵…………… 21

日本放送協会横浜放送局長賞

高齢者の生活を守るために

秦野市立鶴巻中学校

二年 後藤 紗也…………… 24

テレビ神奈川社長賞

よりそう心

川崎市立有馬中学校(宮前区)

一年 松本 慎三…………… 27

神奈川新聞社長賞

薄れゆく記憶の中で

平塚市立土沢中学校

三年 和田あやな…………… 30

ふれあい賞

僕と福祉とヘルプカード

伊勢原市立伊勢原中学校

一年 細田 伊織…………… 33

神奈川県共同募金会長賞

「ごめんなさい」を「ありがとう」に

伊勢原市立中沢中学校

一年 石垣 檀…………… 37

神奈川県社会福祉協議会長賞

祖父の免許返納に立ち会って

厚木市立林中学校

一年 佐藤 美咲…………… 40

優秀賞・準優秀賞入選者名簿…………… 43

## 小学生の部

### 最優秀賞

神奈川県知事賞

いろいろな人がいるんだよ

平塚市立みずほ小学校

六年 井山 瑠璃

私は、一年半前に病気で両足のひざ上から下を失ってしまいました。現在は、義足で生活しています。学校でも使っています。今まではあたりまえに歩いて、友達といっぱい外で遊んでいたりに、義足になってからも遊ぶ事は出来るけれど、外で走り回る事が、出来なくなっていました。

それだけではなく、つらい事も増えました。

一番は、周りの人からたくさん見られてしまう事、もう一つは、自分の思うように行動出来なくなってしまう事でした。

もちろんつらい事ばかりではなく、うれしいこともありました。

一つ目は、たくさんリハビリをして、ふだんの生活で出来る事が増えた事です。それは階段や坂道などです。これは技術的にもとても難しく大変だったけれど、出来た時は涙が出るくらいうれしかったです。

二つ目は、足を失っても出来ない事ばかりではなく、出来る事が多いのだと気付けました。私は、義足を知るまでは二度と歩けない、走れないと思っていました。でも、リハビリの先生や、周りの人たちのおかげで健常者の人達みたいに歩けたり、走るために使うスポーツ用義足をはいてジャンプしながら進んでみたりと今まで想像も出来なくて、あきらめていた事が現実になり、少しずつ前向きになりました。

自分が義足になって、私と同じ人たちの大変さや気持ちがとてもよくわかりました。もし、町中で義足の人を見かけたらするどい目でじーっと見つめるのではなく「あつ、あの人は義足なんだな」と、温かい目で見てください。

困まっていそうだったら声をかけてあげてください。応援しているよ、という気持ちで接してほしいと思います。

## 最優秀賞

神奈川県教育長賞

「ふ」だんの「く」らしを「し」あわせに

大井町立相和小学校

六年 犬塚 美沙

「ふくし」ってなんだろう。みなさんは考えたことがありますか。私は今まで「ふくし」の意味についてよく理解していませんでした。

調べてみると、「ふ」だんの「く」らしを「し」あわせにの頭文字をつなげてみると、「ふくし」になるという言葉を見つけました。私はその言葉を見た時、自分が通っている学校のことを頭にうかんできました。

私に通っている相和小学校では、去年から「相タッチ」をしています。この活動は企画委員会と六年生が中心となり、朝校門で学校に来た児童に、あいさつとハイタッチをする活動です。校門以外にも、ろう下、階段などいろいろな場所で相タッチをしています。学校の中

だけでなく、私が住んでいる上山田では、ボランティアの方や駐在さんとも相タッチをしています。そのおかげで登校する私たちも見守りをしてくださる方々もみんなが笑顔であいさつを交わすことができます。

私は今まで「福祉」とは、お年寄りや体の不自由な方たちが幸せになること、そういう人たちに優しくすることだと思っていました。だけど、「福祉」について考えて、「福祉」とは、みんなが幸せに暮らすことだと思ようになりました。

そして、みんなが毎日を楽しむこと、これは「相タッチ」でもできているのではないかと考えました。なぜなら、「相タッチ」はみんなが笑顔になる、そして、幸せになる工夫だからです。すると、急に福祉をとっても身近な存在に感じてきました。今、私達企画委員会では、ポカポカ言葉を広げる活動をしようと考えています。やらされるのではなく、自分からポカポカ言葉を言うことで、相和小を笑顔にしたいからです。私はこの福祉の意味をみんなに広めて、これからも「相タッチ」をしていきたいと思っています。

## 最優秀賞

日本放送協会横浜放送局長賞

### ヘルプマークについて

座間市立相武台東小学校

五年 加藤 レイ

目に見えないしやうがいや、まわりの人のたすけがひつような人がつけるマークです。

あかいろのフダに、ハートと十字のマークがかいてあります。

ぼくは、できないことやわからないことがあると、パニックになったりしてしまうことがあつたり、もじがかけないので人のたすけがひつようになった時に見せるようにと、市やくしよでおかあさんがぼくがつけるようにもらつてきました。

ぼくも、見ためではしやうがいがあることがわからないけど、ヘルプマークをつけていることで、しやうがいがあることがわかります。

おだきゆうでんでつでは二千十八年六月から全車りよのゆうせんせきにヘルプマークス

テツカーがまどにはられるようになりました。

ヘルプマークをつけている人がいたらおとしよりじゃなくてもけがをしていなくても、せきをゆずってあげてほしいなどおもいます。

ほくはヘルプマークをつけているけれど、からだがいなかたりぐあいかわるかたりするびようきやしようがいじゃないので、ほくもマークをみたらせきをゆずろうとおもいます。

ほかのてつどうでもヘルプマークのポスターやステツカーがはってあります。

これからは、でんしゃいがいでもポスターやステツカーがはってあるところがふえるかもしれない。

ほくもヘルプマークをつけているので、たすけてもらうことがあるかもしれないけれど、ヘルプマークをつけていてこまっている人がいたらたすけたいとおもいます。

# 最優秀賞

テレビ神奈川社長賞

ぼくのおにいちゃんを知って

相模原市立富士見小学校

二年 前田隼汰

※本人ご家族の希望により作品の掲載を控えます

## 最優秀賞

神奈川新聞社長賞

### 弟と支援級

座間市立栗原小学校

五年 鈴木千風

私には、支援級に在せきする弟がいます。でも「弟は支援級。」と言うと、一部の人から「前の弟は、バカなんだ。」と言われたり、何か小さい声でヒソヒソ話されたりすることがあります。私は、支援級に通う弟をはずかしいと思つたことはありません。今年から、一緒に学校に通えてとてもうれしいです。

弟は発達におくれがあり、弟と同年代の子ができることも苦手とすることがあります。同年代の子は、自分の名前を書いたり字を書いたりするけど、弟は、まだ字を書くことができません。字を書く時は一緒に手をそえてあげて、字をなぞれるようにしてあげます。「上手に書けたね。」というと、弟はにこにこ笑います。とてもがんばりやです。

弟の苦手とすることをせめるのではなく手伝ってあげたり助けたりしてあげればよいと思います。支援級の授業でも、できたね、がんばったねを大切にしてくれています。

だから「支援級」というだけで、悪く言わないでほしいです。私にとって一番つらいのは、弟に発達のおくれがあることではなく、「支援級」というだけで悪くいわれることです。弟のような発達におくれがある子が困っていること、苦手としていることに気づき、手伝ってあげられるような社会になってほしいです。

「福祉」という言葉の意味は、全ての人が幸せに生きることがを願い、支援することだそうです。障がいがある子を差別するのではなく障がいの事を少しでも知ってもらい、その考えやイメージを変えてもらいたいです。

いつか、すべての人たちが心のかべをのりこえて一つになれたらいいなと思います。それが今の私の願いです。

## 最優秀賞

ふれあい賞

### おばあちゃんとのりよこうと車いす

伊勢原市立緑台小学校

一年 安倍花怜

わたしは八月におばあちゃんとかぞくのみんなで仙台へりよこうにいきました。おばあちゃんは足がわるくて、いどうするときは車いすをつかっています。おばあちゃんは生まれた町へひさしぶりにいくので、りよこうをとともたのしみにしていました。

だけど、おばあちゃんとわたしたちのりよこうには、いろいろ大へんなことがありました。でん車にのるときのだんさや、ホームに上がったり下がったりするためのエレベーターをさがすのにくろうしました。仙台えきでは、こうじをしていてエレベーターがつかえず、とても大へんそうでした。車いすがつかえないばしよで、おばあちゃんは、「ごめんね」となごもさみしそうなかおをしていました。かえってきたおばあちゃんのひざには水がたまってい

て、びょういんで水をぬいたら血もまじっていて、とてもいたかったそうです。わたしは、おばあちゃんがたのしかったけれどつらかったのかなと思いました。わたしは車いすのままのりこめるでん車のせきやだんさのないホームつかいやすいエレベーターがもつとあるといいのにと思いました。

でも、りょうこうはわるいことばかりではありませんでした。車いすのりおりいっしょに手つだってくれる人や、車いすでいどうできるところまであんないしてくる人もたくさんいたので安心しました。おばあちゃんがたのしい思い出をつくれたのは、たくさんの人のたすけがあつたからだと思いました。

わたしは今回のりょうこうで体のことでこまっている人たちがもつとたのしい思い出をつくれるように、体のことでこまっている人のためのせつびがふえてほしいと思いました。また、わたしたちをたすけてくれた人たちのように、こまっている人への思いやりをもてるようにがんばりたいと思いました。

## 最優秀賞

神奈川県共同募金会長賞

### 目に見えなくても

横浜市立三ツ境小学校（瀬谷区）

三年 林 夏煌

「やった！なついてくれた！」

犬が私の手のおいをかいで、しっぽをふり始めてくれました。その犬は聴導犬です。

私はサマーチャレンジ小学生ふくしこうざで耳の不自由な人の体の一部となつてはたらく聴導犬について学びました。

聴導犬は、かい主にいろんな動作で音を教えます。たとえば、目ざまし時計が鳴った時、かい主の上ののったり、口やはなでかい主をおしたりしておこします。もしも火事など、きけんのある時は、まずかい主の服にしがみついた後、ふせのしせいをとります。

聴導犬とさん歩体けんもしました。犬は私のスピードに合わせてゆっくり歩いたり走った

りしてくれました。道を曲がる時は太ももをたたいて音で犬に知らせました。

聴導犬は人になれているので、知らない人でもなつきやすいそうです。聴導犬はほえないようにくんれんされているので、おりこうでがんばりやですが、そのほとんどがすてられた犬や野犬です。人間が大事にしなかった犬たちが、人間のためにはたらいてくれるなんて、人間は少しかつてだなと思いました。

耳の不自自由な人が聴導犬なしだと、後ろで自てん車のベルが鳴つても気がつきません。そのままぶつかつてころんでしまった人がいると聞いて、私はショックをうけました。

耳が不自自由な事は「見えないしよがい」だそうです。私も今までベルを鳴らせば、みんな聞こえるだろうと思つていました。でも、そういう人ばかりではないということに気がつきました。目に見えないけれど、しよがいや病氣をもっている人がいる事に気づきました。目に見えている事だけではんだんしないで、まってみたりゆずつてみたりする思いやりの心をわすれずにいこうと思います。

## 最優秀賞

神奈川県社会福祉協議会長賞

### 「福祉の素晴らしさ」

相模原市立中野小学校

六年 熊澤 歩 未

私は誰に対しても感謝を忘れないことが一番大切だと思う。

私がそれを感じたのはつい最近の事だ。私の祖父は肺が弱く、一年ほど前から咳をするようになった。昨年の秋頃から異変を感じ始めた祖父は病院に通うようになった。最初は胸膜炎と診断された。だが、病院に通う内に祖父は何度か肺炎を起こした。すると、祖父の肺は急に悪化し始めた。7月の中旬のこと。祖父の体調が急変し病院に運ばれた。祖父はそのまま入院することになった。その後医師から自分の余命が少ないことを知らされた祖父は残された余命を家で家族と過ごすことを希望した。その願いを叶えるため、たくさんの人が一丸となって動いてくれた。例えば、病院の医師、看護師、言語聴覚士、退院支援の方、ケアマ

ネージャー、訪問看護、ヘルパー、入浴サービス、高齢者支援センター、移送サービスなどの方々だ。祖父が家に帰ってきてからは毎日のように入れ変わりで色々な福祉サービスなどが来てくれた。そして祖父母の心と体に寄り添ってくれた。その事が嬉しかったようで、私が祖父に会いに行くと、いつもその日に来てくれた方の話をうれしそうにしてくれた。祖母も心細い介護の中、親身になって相談のつてくれてうれしかった。その後、祖父は亡くなってしまった。結局、2週間程しか家で過ごすことはできなかったけど、その2週間の間で色々な人に支えられ、祖父は幸せな2週間を過ごせたと思う。

最初は知らない人だったのに、一人のためにたくさんの方が関わり、支えてくれる姿を見て、人とのつながりの大切さを教えてもらった。



## 中学生の部

### 最優秀賞

神奈川県知事賞

#### 人生の先輩を大切に

秦野市立南中学校

三年 青山夏凜

私は部活動の練習の後、帰宅しようとのんびり歩いているところである1人のおばあちゃんに出会いました。そのおばあちゃんにかけてもらった言葉は今でも私の心に刻まれています。

蒸し暑い炎天下の中、おばあちゃんは横断歩道をゆっくり渡ろうとしていました。腰を曲げながら重そうな袋を持ってよたよたと進みます。するとおばあちゃんが横断歩道の間にある時に信号が赤になってしまったのです。手前の車からクラクションの音が響き、「助けなくちゃ。」

気付いた時には既に走り出していました。

「荷物、持ちますね。」

手を貸しておばあちゃんと一緒に歩き、渡り切ることができました。

「大丈夫でしたか。」

と声をかけると

「ありがとうね、助かったわ。」

とおばあちゃん。とても優しく温かい口調でした。おばあちゃんは申し訳なさそうに、

「急がないと迷惑なのはわかっではいるけれど、この速さがやつと。腰が痛くて痛くて。」

家までお送りしましょうかと尋ねると

「あなたはいくつなの。若いのにこんな年寄りに気を配れるなんて良い子ね。近頃の若い子の印象が変わったわ。」

と嬉しそうな顔をして言いました。

おばあちゃんは帰り道、次のことを話してくれました。歩道で真横をすれすれで自転車が通った、お店のレジでお会計をする時に店員の方に遅いと舌打ちをされた、バスで席を譲って欲しいと頼んだら無視をされたなど今まで経験したことを悲しげな顔で。どれも若い人だったそうです。そんなことをするなんて。私は衝撃を受けました。おばあちゃんの気持ちを考えた時の、胸がきゅっと締め付けられるようなあの感覚は今でも忘れられません。何と声をかけて良いか、わからなくなってしまうました。

おばあちゃんの家に着くと

「本当にありがとう。あなたのような子が増えてくれれば良いのにね。私のようにあなたの優しさに救われる人はこれからもいるわ。」と笑顔で言ってくれました。

別れた後、話にあった体験談を自分なりに考え直しました。聞いた出来事は高齢社会へと進む今だからこそ絶対にあつてはならないことです。私たちにできることや何をすれば良いかを考え直すきっかけになりました。とても悲しいことだけれど起きているのが現実。嫌な気持ちになつている人が他にもいるはず。

「おいしいちゃん、おばあちゃんをそんな気持ちにさせてはいけない。」  
できることを手伝いたいと強く思いました。

まずは簡単なことからと、それから私は祖父母が普段1ヶ月に1回のペースで通っていたデイサービスについていくようになりました。今でもボランティアとして祖父母に混ざつておじいちゃん、おばあちゃんと一緒にお話しをしたり、折り紙を折つたりして楽しんでます。人生の先輩であるおじいちゃん、おばあちゃんのお話はどれもためになることばかりです。先輩から若い人たちが学ぶべきことはまだまだたくさんあるのではないのでしょうか。

私はおばあちゃんの

「あなたの優しさに救われる人がいる。」

という言葉に勇気をもらいました。自分ができることなんて、人にしてあげられることなんて、限られているだろうと決めつけていた今までの私にこの言葉は自分自身が持っている

可能性を大いに広げてくれたのです。おばあちゃんには感謝の気持ちでいっぱいです。今日も私はあの言葉を胸に学校生活を送っています。「福祉」という言葉が似合う素敵な世の中になりますように。そう願っています。



## 最優秀賞

神奈川県教育長賞

### 母がくれたプレゼント

寒川町立旭が丘中学校

三年 笹生

葵

私が生後一ヶ月頃のこと。母がある変化に気がついた。表面が母のように赤く、つぶつぶした感じにもり上がっている物が頭に三つあることに。それは、母状血管腫というものだった。三つのコブはどんどん大きくなっていった。生後五ヶ月頃には、直径二〜三センチ程の真っ赤なコブとなっていて、小さな頭に三つのコブはとも目立っていたそうだ。母は私のコブを人に見られたくないため、それらを隠す帽子を用意した。外出する時には私に帽子をかぶせたが、私が嫌がつて取ってしまうことがよくあった。三つのコブを見た人は必ず驚く。そのあと、母や私にどう声をかけたらよいのかわからず無言になる。または、かわいそうね、どうしたの？、と、私ではなくコブに興味津々になる。母は、どんな人にも笑顔で対応したが、

心では泣きそうな時もあり、私が簡単にとれない帽子は、外出の必需品となった。

しかし、ある日の病院の外来をきつかけに母の思いが変わった。待合室で、4〜5才程の女の子が私に近づいてきて私の頭をなでた。その時に帽子がとれて、三つのコブがあらわになった。母はハツとした。すると女の子は私のコブをツンツンと触り、ニコニコしながら、

「これ、かーいーね（かわいいね）イチゴ。」

と言った。母は、女の子のかわいらしい様子と、ツンツンされてニコニコしている私を見て、思わず笑ってしまい、女の子に「ありがとう。」と伝えると、涙が出てしまった。女の子のママは慌てて「すみません」と母に伝えると、女の子の方をむいて話し始めた。

「○○ちゃん、この苺ちゃんは、赤ちゃんの大事な苺ちゃん、沢山の幸せをプレゼントするために神様が空から見つけやすいように印をつけてくれたの。触ってはいけません。」

と。それを聞いていた母は、目の前が明るくなるのを感じた。女の子のママは、女の子に発達の遅れがあること、それを知ったママはショックだったこと、でもおかげで今まで知らなかった障がい者や家族の思いを知ることができてよかったと思っていることなどを話してくれたそうだ。この日から、帽子は外出の必需品ではなくなった。

あの日から今日まで、街中や施設ではバリアフリー化が進み、母がベビーカーと私を抱えて階段を上り下りした駅にもエレベーターができた。二〇一六年には、障害者差別解消法が施行され、ハード面はよくなっているように感じる。しかし、健常者と障がい者の間の心のバリアフリーは、まだまだだと感じる。参議院に当選された二人の重度障がい者への冷たい

コメントや、車いすの人を入店拒否するなど、障がい者の方々は世間の心ない反応に、今もなお日常的にさらされている。きっと母は、そんな現状に娘をつれ出して悲しい思いや切ない思いを感じたくないから、私の母を隠していたのだろう。そんな母にとつて病院で出会った親子の言葉は本当に嬉しかったと思う。私は、あの親子が様々な人と関わって色々感じてきたからこそ、母の抱えていた痛みも感じとつて下さつたのだと思う。多くの健常者が障がい者と当たり前のように接する機会も少なく、理解を深めていないから心のバリアフリー化に時間がかかっていると私は思う。

インド独立の父、ガンジーの言葉に、

「世界でおこつてほしいと思う変化に、あなたができることです。」

とある。母の心を明るくして下さつた親子のように、私も誰かの心を明るくしてあげられる人になりたい。そんな優しさの輪が広がっていけば、障がい者があるままに安心して生きていけるような社会になると思う。

あの時の私の母は消えたが、母は、私の心にバリアフリーという素敵な幸福のプレゼントをくれた。

## 最優秀賞

日本放送協会横浜放送局長賞

### 高齢者の生活を守るために

秦野市立鶴巻中学校

二年 後藤 紗也

最近、高齢者による交通事故のニュースを度々目にします。それに合わせて、運転免許自主返納という言葉も聞くようになりました。事故を減らすためには、運転をしないことが一番だと思いますが、高齢者にとつて免許を返納することは簡単ではありません。

実際、私の祖父は八十才を過ぎて運転をしています。もちろん私たち家族は心配をします。しかし、免許を返納して欲しいという話は、なかなか切り出せません。なぜなら、祖父の家は高台にあり、近くにコンビニエンスストア一つありません。また、バス停も坂をずっと下った所まで行かないとありません。何より一番楽しみにしている畑仕事には車を使わなくては行けません。祖父と同居している叔母は、祖父が運転をしなくなったら、認知症に

なってしまうのではないかとという心配があるようです。インターネットでの調べでも、運転をしないことで、記憶力や判断力が欠け、運転をやめた後に、認知症が突然進んでしまったという事例があるということがわかりました。祖父は最近、免許を更新し、あと三年乗れると喜んでいますが。祖母もまた、車が無くなったら、生活ができないと思っています。近くに住んでいれば、父や母が車を出して買い物の手伝いや送迎ができますが、遠く離れているため、それをしてあげることができません。このような状況で、私たちは、簡単に運転をやめて欲しいとは言えないのです。しかし、実際問題、高齢者による交通事故は後を絶たないのです。では、どうしたらよいのでしょうか。

祖父を見てまず思ったことは、八十才も過ぎているのに、免許証の有効期間が三年もあるということでした。私は祖父に、半年に一回くらいのペースで会いますが、その度、加齢による身体の変化を感じるがあります。高齢者にとっての三年は、長すぎます。三年の間で衰えがかなり進む人もいるだろうと考えられます。有効期間をもっと短かくし、細めにテストを行うべきだと思います。

そして一番大事なことは、車がなくても生活ができる環境を作ることです。免許を返納すると「運転経歴証明書」がもらえます。その証明書を提示することで、バス、鉄道が半額、または無料になったり、タクシー料金が割引になったり、スーパーマーケットで格安で配送ができたり、様々な施設が割引になったりします。しかし、これは一部の自治体によるもので、全国ではありません。ですから、車がなくても、快適に生活できるように、その

地区に合った補助を考えるべきです。祖父が住んでいる市では、バスや電車の割引がありませんが、そのバスや電車に乗るまでの道のりが困難で利用できないのです。玄関の近くから目的地まで行ける福祉バスやタクシーなどがあればいいのと思います。実際にそういうことを行っている地域もあるようなので、不可能だとは思えません。全国の福祉サービスを調べてみると、様々な取り組みを見つけたことができました。その地域の高齢者の声を聞いて、何が必要なのか知ることが大事だと思います。生活の不安や不自由さが無くなれば、無理をして運転する必要がなくなります。また、公共のサービスを利用すれば、家族以外の人とコミュニケーションをとる機会が多くなり、認知症予防にもつながると思います。

高齢者の交通事故を減らすためには、国や自治体の協力が必要です。免許証を返納した後も、不便なく生活できる環境を作って欲しいです。そして私は、次に祖父に会った時、運転についての話題を切り出してみようと思います。

## 最優秀賞

テレビ神奈川社長賞

### よりそう心

川崎市立有馬中学校（宮前区）

一年 松本慎三

ぼくの祖母はとても強いと思う。小学校から耳が不自由でも今も一生懸命生きているのだから。よく祖母から「元気かな？」と携帯電話の電子メールを受け取る。近くに住む母方の祖母は小学生のときに聴力を失ったため、発音は僕たちとほとんど変わらない。手話ではなく唇の動きを読む、「読唇術」で会話をするので、見ただけでは耳が不自由だということは誰も気づかない。僕も話していて、耳が不自由ではないかのように話を通じる。

耳の不自由な人から見た世界はどんな物だろうと想像してみる。人指し指で両耳をふさいで音を遮断してみた。自分の心臓の音が大きくくひびいている。風の音、車の行き交う音、虫の鳴き声、人々の足音や話す声、テレビから流れる音など、普段よく聞こえていて、あまり

意識して聞いていない音が全くしなくなるとたん、恐怖や焦りを覚え、じわーっと汗が出てきた。人々の口がパクパクと魚のように動いている。何を話しているのだろうか？何で笑っているのだろうか？僕は不安で押しつぶされそうだった。まるでこの世に一人ぼっちになったようで、なんだかとても怖かった。耳の不自由な人の心細さを思い知った。

目の不自由な人は白い杖を持っている。足の不自由な人は車椅子に乗っていたり、盲導犬を連れている。一方、耳の不自由な人が歩いていても気づくことは大体ないだろう。けれど僕が感じたとても不安と恐怖を持ったまま歩いているのだろうと思うと胸がしめつけられるような気持ちがあった。後ろから自転車がベルを鳴らしても、車がクラクションを鳴らしても気づくことが出来ないのは、とても危険なことだ。

祖母があるお店の店員さんに後ろから話しかけられた時、もちろん気づかなかったのだが、その店員さんは無視されたと思ったのだろう、とても不機嫌な顔をした場面を見たことがある。僕が「耳が不自由で全く聞こえないんです。」と言って、誤解を解くことができたけれど、祖母がかわいそうになり僕も悲しくなった。それと同時に、そう思われてしまっても仕方のないことだとも思った。耳の不自由な人たちが一人で行動する時、数えきれないほどこのようなことがあるのだろう。

最近テレビでは字幕がでることが多くなり、病院では筆談で対応してくれる。電子メール利用などでどんどん便利になっている。しかし全ての人にとって居心地の良い社会にするのに一番必要なことは、全ての人が家族や友達だけでなく、全ての人に対する思いやりやより

そう心を持つことだと思う。僕たちは、「どこへ行ってもそこにはハンディキャップを持った人たちがいる。」と考えなくてはならない。それが当たり前なんだとそう意識していれば少しの気づきで、困っている人を手伝うことができる。

ハンディキャップを持った人たちは、実際に助けが必要であっても、見知らぬ他人に声をかけてお願いするのは、難しいことだと思う。僕にできることはあるかな？と気づけた時に「お手伝いしましょうか？」の一言が普通に言える人間になりたい。

僕は祖母の心に寄り添えているだろうか？そう思う時、いつも何気なくしているメールのやりとりも想像以上に大きなものだと気付かされる。今度は僕からメールを送ろう。祖母の静まり返った世界に決して耳からは聞こえない僕の声が響くように。

## 最優秀賞

神奈川新聞社長賞

### 薄れゆく記憶の中で

平塚市立土沢中学校

三年 和田 あやな

私の自宅の近くに、母方の祖父母が二人で暮らしている。二人共もう八十才以上の高齢である。

私は二人が大好きだ。

数年前から、祖父は認知症を患っている。進行を遅らせる薬を毎日きちんと服用しているが、年々症状は悪化している。

認知症になる前は、よく小学校まで迎えに来てくれたり、我が家の隣りにある畑で農作業をしていた。だから、日焼けした腕は年齢のわりには筋肉がもりもりだ。

ゆっくりと進行していた認知症の症状が、急激に酷くなった時があった。祖母の入院の時

だった。祖母がしばらく入院する事を説明してその時は理解しても、十分も経たないうちにまた同じ質問をしてきたり、誰が入院する事になったのかわからなくなったり、怒りっぽくなったり、頑固になったり……。その時の祖父はまるで別人のようだった。そして、何気ない日常会話の中で急に怒り出すようになった。理不尽なことでよく母は怒鳴られていた。

祖父は若い頃から、車が好きだったそうだ。私が小さい頃からよく車やバイクや大型車など多種の免許を持っていると、何度も何度も話してくれた。祖父の自慢の一つなのだろう。だから、今社会問題になっている、免許証の返納の時は、親戚中で大変苦労した。認知症の疑いがあると診断された時、車の運転は控えてくれるようみんなで説得したが、当然納得できない祖父は断固拒否。自分自身、認知症だと理解できていないため、何でもないのに、安全にまだまだ運転できるのに、なぜ返納しなくてはならないのかと。母たち姉妹は相談して、口頭でのお願いが受け入れてもらえないのならと、車の鍵を隠した。祖母が入院中の出来事だ。すると、夜中に玄関のチャイムが連打押しして鳴り、ドアを開けると泥だらけの祖父が立っていた。車の鍵が無いと、深夜の暗闇の中、庭や畑を探したのだった。当然見つかるはずもなく、途方に暮れた祖父は、暗い夜道を歩いて我が家まで来たのだった。どうしたの？との問いに「母さん（祖母のこと）が、どこを探してもいないから、車で探しに行こうと思ったら、車の鍵もないんだよ……。どこかに落としちゃったのかと思ってあちこち探したんだけど、見つからないんだよ。悪いんだけど、一緒に母さん探してくれないか……。」と言った。涙が出た。涙が止まらなかった。今まであたり前に側にいた祖母は入院中。大好

きな車の鍵も無い。大切にしているものが次から次と見当たらなくなって、きつとパニックになったのだと思うと、涙があふれ出てしまった。なぜ祖母がいなかったのかと鍵は預かっていることを説明すると安心して帰宅した。母に連れられて車に乗り込む祖父の後ろ姿が、何だかとても小さく感じた。

その後、祖母も無事退院し、免許証もなんとか返納することができた。しかし、最近の祖父は、無気力ですっかり大人しくなってしまった。畑仕事も全くやらなくなってしまった。免許証を返納したので、トラクターの運転もできないため、畑の草がぼうぼうだ。そんな畑を見る度に、祖父の存在の大きさをひしひしと感じる。

最近の祖父の口癖は、

「おいちゃん、色んな事がわからなくなっちゃって、もうやんなっちゃったな。」である。

『老いる』ということは、誰にでも訪れる。認知症の症状のせいで別人のような人格になることもある。怒りっぽく、頑固なものも症状のひとつのようだ。しかし、私は決して祖父を嫌いになることはない。私には祖父との沢山の思い出がある。祖父も薄れゆく記憶の中で、私との思い出をたくさん語ってくれる。

私は祖父と祖母、二人が大大大好きだ。

## 最優秀賞

ふれあい賞

### 僕と福祉とヘルプカード

伊勢原市立伊勢原中学校

一年 細田伊織

今、僕は福祉について考えている。

そこにはある出発点があるからだ。

真っ赤なカードに「十字のマーク」と「白のハート」。それを聞いてすぐに「ヘルプカード」を頭に思い浮かべてくれる人は、どのくらいいるのだろうか。

僕の母は今、ヘルプカードをつけて外出している。持病があり年齢を重ねることに悪化していく。

最近までは混んだバスや電車で立っていたし、むしろ席を譲るといふ行動で、僕にでもできる社会への優しさへのお手本だった。

「心配り」や「心配り」を母から学んだ。

しかし最近になって、母は駅の階段を登りきることが難しくなった。階段を降りきることでも大変になった。予定していた電車に乗れなかったことも一度や二度ではない。急行電車は混んでいるので各駅停車で座って外出することも増えた。でも、それが僕たち家族にとっての日常だ。

そんな矢先、僕たち家族はヘルプカードの存在を知り手にした。

果たしてこれをつけて外出するかどうか。僕たち家族は悩み話し合った。なぜなら、母がそれをつけることをためらっていたからだ。

母は、

「本当はその日、体調が悪いのに外出している人もいる。見えないだけで手助けや配慮を必要としている人もいるかもしれないのに、ヘルプカードをつけているという理由だけで恩恵を受けるのは気が引ける。」

と言った。僕は最もらしい理由だと思った。一方で、母は気丈に振る舞うことで自分を保っているような気もした。

父は、

「身体が悪いのだから、気づいてももらうためにも、つけるべきだ。」

と言った。確かにそうだ。誰だつて自分のことで精一杯なのは当たり前だから、何もせず気づいてもらうのは難しい。それに、母が電車やバスで座っている前に、身体の不自由な

方などが来た時に、席を譲れない母の立場と罪悪感をヘルプカードが代わりに伝えてくれるかもしれない。

姉は、

「ヘルプカードが社会に周知されていないのが現状で、必要な人がつけることで社会に認知してもらおう、その第一歩、先駆けとしてつけることに大きな意義がある。」

と母を説得した。姉の意見もその通りだ。電車の優先席を示すステッカーの横に申し訳なさそうに貼られたヘルプカード説明ステッカー。どれだけの人に目に止まるだろう。ヘルプカードの意味をどれだけの人が正しく答えてくれるか。

今、ようやく社会に認知され始めたからこそ、母が正しく使い理解を深めてもらうことは大切だ。

僕はこの家族の話し合いを通して、福祉の考え方に「生きる」というテーマがある以上そこに正解はないのではないかと思った。

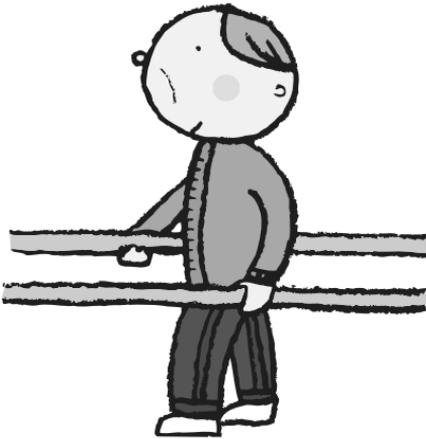
少し前の僕の福祉は「優しさと思いやり」だと思っていた。それも正解だ。

けれど今、母の病気の悪化で出会ったヘルプカードを通して福祉の考え方が変わった。

皆で支え合うことが福祉ではあるけれど、現実には支えられる重さも在り方も、その人それぞれだ。

でも、福祉をそれぞれの立場の人で担い合っていると考えたら、自分にできることをやればいいと解釈できる。無理は必要ない。

母は堂々とヘルプカードをつけて外出し、母に何か手助けができるゆとりのある人はそれをしてくれたり母は助かる。  
僕が行き着いた福祉は、無理をせず自分ができることをすること。どんな立場の人も、その人らしく。そして僕も僕らしく。



## 最優秀賞

神奈川県共同募金会長賞

『ごめんなさい』を『ありがとう』に』

伊勢原市立中沢中学校

一年 石垣 檀

「『ごめんなさい、すみません』と頭を下げ続けていると落ち込みます。」

ネットニュースを見て、こんな言葉が目についた。これは、三年前に脊髄を損傷し、車いすで生活している女性のツイートだ。

「電車で移動中でのこと。車いすの介助を申し出た駅員と改札口からホームに向かう途中でした。」

『申し訳ございません』

『車いすが通ります』

『ご迷惑をおかけします』

大声で連呼する駅員。」

普段、車いすが通るときに、僕がこの声かけを聞いても、特に「ひどい」とは思わないだろう。ただ、注意喚起をしているのだ。でも、いざ、こういった記事を見てみると、車いすの人側の気持ちに分かる気がしてくる。

『ご迷惑をおかけします』

と言うと、まるで車いすの人が邪魔な存在かのようなのだ。確かに車いすは大きくて、幅をとるけど、好きでけがをして車いすに乗っているわけではないのだから。

この投稿に、ネット上では賛同する意見が次々に寄せられた。

「確かに：電車に乗ることが迷惑みたいな感じでもんね。私は駅員さんと仲良くなることが多いので『通りまーす！』と伝えてもらってます。私は笑顔で『ありがとうございます！』と言って通ってます。目立ってしまうなら堂々として笑顔でモデルのように通ります。」

と、電動車いす利用者の方、

「両手杖で歩いているものですがやはり『ありがとうございます』と言って歩きます。すみませんより、ありがとうございますの方が感謝を伝えられる：」

などだ。確かに、「すみません」と言うより、「ありがとうございます」と言った方が、言う方も言われた方も気持ちが良いだろう。

その一方で「押してもらってるのになんだ」「障害者様だな」などと、否定的な声も相次いで寄せられたようだ。こうした意見に、その女性は

「ただ、日常で感じたこと、自分の気持ちを知ってほしいと投稿したのに、ここまで否定したり心ない意見が出たりすると、悲しい気持ちになりました。」

と話している。

否定的な声を上げた人たちは、多分、何の障害もない、いたって健康な人たちだったのだと思う。そのため、車いす生活をしている人たちの「苦しさ」や「不自由さ」は分からないし、分かるうともしないのだ。だから、そんなことが言えるのだと思う。

海外では、周りにいる人が車いすに素早く気づいてくれて、さらに移動を自然に手伝ってくれるため、『ありがとう』だけで目的地に着くことができるが、日本では誰にも気づいてもらえず、よけてもくれないため、『すみません』を言い続けてやっと目的地に着くそう。どつちが良いだろう。多分全員、『ありがとう』を言って気持ち良く目的地に着きたいだろう。そのためにも、視野を広くもち、障害のある人が常に身近にいるということを考えた方が良いのだろう。

「車いす利用者に優しい社会は、ベビーカーや高齢者にも優しいものだということも感じてきました。『すぐ隣にいる自然な存在』としてコミュニケーションをとりあうことができる社会になっていってほしい」

これは最初の、車いすに乗っている女性の願いだ。こういった一人ひとりの願いを叶えることが、より良い未来につながるっていき、そして「幸せ」につながるっていくのだと思う。

## 最優秀賞

神奈川県社会福祉協議会長賞

### 祖父の免許返納に立ち会って

厚木市立林中学校

一年 佐藤 美 咲

最近、高齢者ドライバーによる事故が後を絶たない。私の祖父も、つい先日まで高齢者ドライバーだった。だが、免許を返納し、これからの交通手段はタクシーになった。私はこの祖父の行動は、立派でとても勇気のある行動だと思った。なぜなら、本人としてはまだ自信があったにもかかわらず、自分のため、家族のために、リスクの少ない道を選び行動したからである。そこに行き着くまでには、さまざま迷いや思い悩んだこともあったのだろう。それに、自分の限界を認めることは悔しいし、難しい。ましてや「認める」という行為は自分の中だけにあるものだが、「返納する」という行為は、目に見える形で自分の運転の限界を示すことだ。認めるという心の中の行動より、返納するという目に見える形での行動のほ

うが、何倍も悔しく、何十倍も難しく、何百倍もの葛藤があつたにちがいない。そういういろいろな感情を乗り越えて返納を決意した人たちは、やはりとても立派で、人生にとつて間違ひなくプラスの決断をした、強い心の持ち主なのだと思う。これからは、自分で運転することはできないが、タクシーやバス、デイケアサービスの買い物、リハビリなど、さまざまな手段を活用しながら、上手に、楽しく、幸せに生活して行ってほしい。

私が祖父の免許を返納する準備をしているときに思ったことがある。それは、返納すると最終的に決めたのは祖父だが、祖父が良い決断をするに至った背景には、周りの人の支えが大きく関係していると思つたことだ。母が主な段取りを担い、ケアマネージャーの方が、調べただけではわからない専門的な知識をフル活用して、祖父を支えてくれた。ケアマネージャーの方は、祖父と祖母が車を手放した後の生活が、どうすれば快適に過ごせるかなどの疑問に、丁寧に答えてくれた。実際に祖父の家に来て、返納後の生活について具体的に話してくれたことで、今まで何もわからず、不安ばかりが募っていた祖父の心に、返納後の生活も楽しみだといった、いわば光が差したのだと思う。その他にも、祖母が一番近くで励ましたり、デイケアサービスの人が、これまで返納した人がどう工夫して生活を送っているかなどのお話もしてくれただ。その話しを聞いたことで、祖父も返納後の生活について想像しやすくなり、だいたい見通しが持てるようになったのではないかと思つた。その姿を見て、私たち家族も安心した。車がある無いに関わらず、自分たちで考え工夫をすれば、生活を豊かにすることはいくらでもできると思つた。たくさんの人が親身になって、祖父のことを支えたからこそ、

今回の免許返納までスムーズに事が進んだのだと思う。支えてくれた方々には感謝しかない。そして、行政の取り組みの一つであるタクシー券の配布も、返納のきっかけを作ってくれた。こういう取り組みがあるからこそ、一歩踏み出せる人も少なからずいるはずだ。高齢者に優しい地域を作ることが、事故を減らすことにもつながると思う。

私は、免許を返納することは、その人が車と共に安全運転で駆け抜けたことを示す証だと思ふ。無理に運転して事故を起こし、残りの人生を「犯罪者」というレッテルをはられて生きるのではなく、素敵な余生を過ごすためにも、私は免許を返納することを強く勧めたい。しかし、返納することに対してのためらいもあるにちがいない。そういう時は身近な人が手を差し伸べ、背中を押してあげることが大切だと思う。人に対して暖かく、優しい地域を作ること、免許返納を身近に感じることができ、気軽に返納できるようになると思う。今後、高齢者に対する支援の輪がさらに広がりをみせ、車が無くても便利に生活できる世の中になることを期待したい。

# 神奈川県福祉作文コンクール入選者名簿

## 小学生の部

### 優秀賞

私のねがい	秦野市立堀川小学校	四年	宮崎	琴羽
「ありがとう」の笑顔	開成町立開成南小学校	四年	井上	心結
私が総合で考えたこと	逗子市立小坪小学校	五年	金子	ひまり
福祉とのつながり	伊勢原市立成瀬小学校	五年	北村	芽生
耳の不自由な人が安心できる社会へ	大磯町立大磯小学校	五年	荻村	明希穂
バリアフリーについて考えたこと	函嶺白百合学園小学校(箱根町)	五年	小村	仁子
助けあえる社会へ	平塚市立富士見小学校	六年	小川	眺凜
ボランティアで学んだ助け合い	厚木市立緑ヶ丘小学校	六年	藤山	泰志
便利と不便	厚木市立愛甲小学校	六年	奥村	嘉月
この経験を生かして	開成町立開成小学校	六年	田仲	里衣

## 準優秀賞

わたくしのかみのけ	函嶺白百合学園小学校 (箱根町)	一年	園田
車いすののつて	横浜市立吉原小学校 (港南区)	三年	山野井 翔大
手話で気持ちを伝えるには	川崎市立宮前小学校 (川崎区)	四年	手塚 美羽
ゆう気ある声が光に	厚木市立上依知小学校	四年	大津 拓真
小さな第一歩	座間市立相模が丘小学校	四年	掛川 栞里
私にできること	開成町立開成南小学校	四年	小野 紗陽香
みんなが対等な世界に	横浜市立不動丸小学校 (旭区)	六年	加藤 希郁
みんなが暮らしやすい社会を目ざして	寒川町立小谷小学校	六年	菊地 奏良
助けあい	大磯町立国府小学校	六年	二見 清香
居場所と役割	大井町立大井小学校	六年	橋本 有楽

## 中学生の部

### 優秀賞

障害者の力になれる人って？	横濱共立学園中学校（中区）	一年	石川陽菜
高齢者が安心して暮らせるように	横濱市立六浦中学校（金沢区）	一年	久保田一樹
自分らしく生きる祖父を通して	県立平塚中等教育学校	一年	阿部康陽
自分の障がいと福祉について	逗子市立久木中学校	一年	金子莉奈
今、私たちにできること	県立平塚中等教育学校	二年	藤原帆夏
隔てているもの	伊勢原市立伊勢原中学校	二年	市川千姫
勇気をもった小さな一歩	座間市立栗原中学校	二年	若林幸音
さまざまな「福祉」の形	座間市立栗原中学校	二年	橋本百花
これからも	横濱市立東山田中学校（都筑区）	三年	永井拓実
二百才のおじいさん	開成町立文命中学校	三年	大野水々紅

## 準優秀賞

まず耳を傾けることから  
 デイサービスという仕事  
 私が大好きな祖母  
 私の弟はデイスグラフィア  
 優先座席とモラル  
 思いやり  
 福祉とは  
 幸せな介護  
 妹から学んだこと  
 自分にできること

川崎市立有馬中学校（宮前区）	一年	小清水	遥
厚木市立厚木中学校	一年	志澤	柑菜
厚木市立厚木中学校	一年	穴田	心海
厚木市立荻野中学校	一年	小柴	星海
秦野市立本町中学校	二年	廣瀬	生弥
厚木市立依知中学校	二年	井上	史哉
海老名市立今泉中学校	二年	湯口	紋菜
鎌倉市立大船中学校	三年	吉岡	建輝
葉山町立葉山中学校	三年	益子	海音
開成町立文命中学校	三年	美濃島	由智

神奈川県福祉作文コンクール入選作品集 令和元年度版

---

令和元年 12 月発行

発 行 者 社会福祉  
法 人 神奈川県共同募金会  
〒221-0844 横浜市神奈川区沢渡 4 - 2  
電話 045(312)6339

社会福祉  
法 人 神奈川県社会福祉協議会  
〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町 2 - 24 - 2

電話 045(312)4813

印 刷 神奈川県新聞社

---

社会福祉法人 神奈川県共同募金会  
社会福祉法人 神奈川県社会福祉協議会